

職員の皆さんへー「新生活サービス」の意味と目的

2013. 2. 7

らいふ代表 吉田 伸一

私たちの「新生活サービス」は、数ある高齢者介護生活サービスを行っている福祉法人、企業の中で、現在は当社らいふだけが持っている独自のサービスであります。

出来ることならば日本全国の法人、団体がこのサービスを理解し賛同し実行してもらいたい。

まず介護を必要とする高齢者の老人ホームにはどのような方が入居されるだろうか。いろいろなケースがある。たとえば病院から退院しても家族が面倒を見られないという場合、家庭では介護の度合いが進んでしまい手に負えなくなる場合、一人暮らし、二人暮らしであったが自身だけでは暮らせなくなる場合、おおよそこのようなケースが代表例である。

さて老人ホームに入居するということは、好むと好まざるとに関わらず、長年暮らしてきた住居やその地域の隣近所を始めとする生活の拠点が、その親しんできた生活の習慣が根こそぎ全く新しい生活に変わってしまうということであり、全く見知らぬ場所へ放り込まれるようなものである。**その環境の激変**の影響は如何ほどのものか、私達がどれほど想像しようともその想像をはるかに超える、悲嘆、諦め、悲しみ、怒り、苦しみ、悩み、その他の**負の感情**が押し寄せるだろう。それは外側にいる私たちには決して何うことが出来ない、決して理解が及ばないことである。

したがって入居の初期段階ではその負の感情が最高度にあるわけだから不穏行動は当然であろうし、また気分が落ち込むのは当たり前であり、食事が細くなることも往々にして起こる。しかし本当に大事なことは、どんな環境であろうが生きている間は生き続けなければならないのが私たちの生活人生である。

老人ホームへの入居というその負から始まる新しい生活に、如何にして「生きる力」を引き出し、新たな生き方、新しい生活のスタイル、そして新たな生きがいを作ってゆく、そのお手伝いをするを「新生活サービス」と呼ぶのである。

そしてこのサービスの基本中の基本は、聞く耳を養うことそして徹底して入居者の隠れた要望、奥底に仕舞い込まれているであろう「やってみたいこと、やってみたかったこと、やり残したこと」を引き出す私たちサービス側の聞く力が問われるのである。このサービスはこの会社らいふの仕事に携わるすべての人々が、自分の仕事の本当の**奥底の義務**として**真の職務モラル**として実践する事で成し遂げられるのである。